

contents

[コラム]

各大学のシラバスを比較してみと…疋田輝雄

[解説]

考える講義を目指して…都倉信樹

[解説]

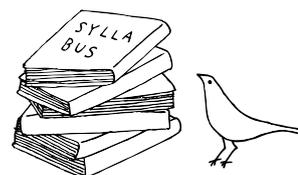
JABEEを通じた大学教育の質的保証(後編)…寛 捷彦

[特別コラム]

お大師様を訪ねて(1) 本来無一物…湖東俊彦

■ 応 一般 Column

各大学のシラバスを比較してみと



各大学のシラバスは最近、記述が充実してきている。授業は大学が学生に提供するサービスの大きな部分で、授業のシラバスはいわば学生と大学との間の契約書と言える。にもかかわらず(少なくとも情報専門学科について)シラバスから学科の教育内容を客観的に調査しようとした試みはほとんどなかったようである。筆者らは本会コンピュータ科学教育委員会の活動の一環として、シラバスの調査を行った。詳細は本誌2011年8月号を見ていただきたいが、本稿では調査に際して思ったことを述べたい。

今回、シラバスによって、49の理工系情報学科のカリキュラムの内容を調査した。カリキュラム標準 J07-CS¹⁾の知識体系のコアトピック(必修)をどの程度カバーしているかを、15のエリアごとに、時間数で定量的に調べた。調査の報告からいくつかの結果を述べる²⁾。各学科のシラバスとCS標準を比べてみたものである。CS(Computer Science コンピュータ科学)とは、情報およびコンピュータの学習分野をどちらかという理論的にとらえたもので、以下は結果のまとめの一部である。

- (1) アーキテクチャやオペレーティングシステムなどの、CSで「伝統的な」エリアでは、カバー率は高い。
- (2) ヒューマンコンピュータインタラクションなど比較的「新しい」エリアでは、学科間のバラツキが大きい。カバーすべき内容量が少なめのせいもある。
- (3) ネットワークエリアは、コアが少なめのこともあるが、カバー率は高い。
- (4) ソフトウェア工学は、コアの要求内容は多いが、カバー率は低い。

また、日本の理工系情報学科が、CS型、IS型、メディア型、経営工学型などに分かれるのが、エリアごとのカバー率によって分類できそうだと分かった。しかしおそらく米国ほどには明確に分かれないと思われる。

一般に、ある分野の授業を、異なる学科の間でシラバスによって比較することは、教育の内容の改善のために効果が大きい³⁾。しかし今回の調査では、そもそも各学科のシラバスの表現の形式が大学ごとにまちまちなのに驚いた。米国の大学科目では、たとえば授業の番号付けなど、形式がもう少しは統一されているようである。

学科間のシラバスを比較しやすくするには、記載の基本的な形式を統一してしまうのが効果的である。シラバス文書に限らないことだが、標準的な様式をたとえばエクセルやXMLで作成し共通で使用することを提案したい。学科の教育内容が、シラバスを通して容易に比較できるようになることは、教育内容の切磋琢磨を促し、さらに学士力強化方法の具体化にもつながるであろう。

参考文献

- 1) 情報処理学会カリキュラム標準コンピュータ科学 J07-CS 報告書, 151p. (Jan. 20th. 2009), http://www.ipsj.or.jp/12kyoiku/J07/20090407/J07_Report-200902/4/J07-CS_report-20090120.pdf
- 2) 疋田輝雄, 石畑 清: シラバスに基づく理工系情報学科のカリキュラム調査, 情報処理, Vol.52, No.8, pp.1020-1025 (Aug. 2011).
- 3) 関谷貴之, 山口和紀: カリキュラム標準 J07-CS と CC2001CS の比較に関する報告, 情報教育シンポジウム, SSS2011.

疋田輝雄 (明治大学)